

# JICE REPORT

2024  
ISSUE  
**45**  
ISSN 1347-4502



## 社会課題の解決に貢献するインフラ政策



## 表紙の解説

### ネイチャーポジティブに貢献するインフラ整備

表紙の写真は、生態系に配慮して高架タイプにしたエコロードの原点である日光宇都宮道路（左上）や動物の生息域分断対策である茂原第一トンネル（右上）、生息域保全対策である大橋ジャンクション（下）などの取り組みです。これらの取り組みは、ネイチャーポジティブの観点から注目されています。

### ネイチャーポジティブとは

ネイチャーポジティブとは、「自然再興」の意味で、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指しています（図1）。

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）などでネイチャーポジティブの方向性が新たな国際目標として示され、日本では、「生物多様性国家戦略2023-2030」において、2030年までにネイチャーポジティブを達成するという目標の下、健全な生態系の確保などによる自然の恵みの維持回復などを目指しています。

### 道路分野におけるネイチャーポジティブの取り組み

1992年の地球サミットを契機として、道路分野では、良好な環境を創造する道路環境施策を体系的に推進することが始められ、エコロードなどの野生動物が自動車に轢かれる死亡事故（ロードキル）対策などが取り組まれました。

しかし、国土交通省によると、道路上で発生したロードキルは、令和4年度に直轄国道で約7万件、高速道路で約5.1万件発生しており、未だに健全な生態系を確保する上での課題となっています（図2、3）。

ネイチャーポジティブの観点を踏まえ、ロードキルなどの個別課題の対策は、道路空間と周辺の生態系全体を俯瞰した施策に転換することが求められています。

道路分野に限らず、今後のインフラ整備において、ネイチャーポジティブは重要な視点・取組となりつつあります。

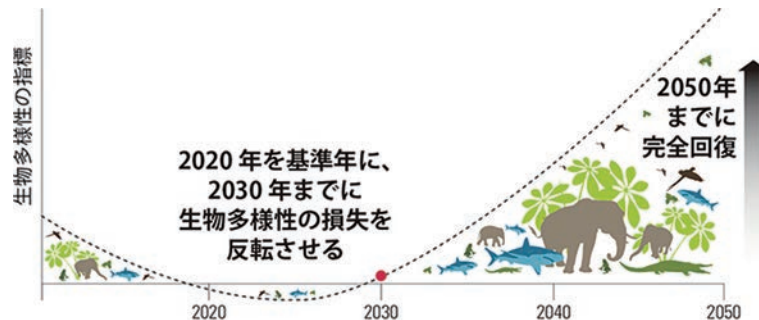


図1 2030年までのネイチャーポジティブに向けた自然のための測定可能な世界目標

出典：WFP: 生きている地球レポート 2022, pp.103, 2022.10.13

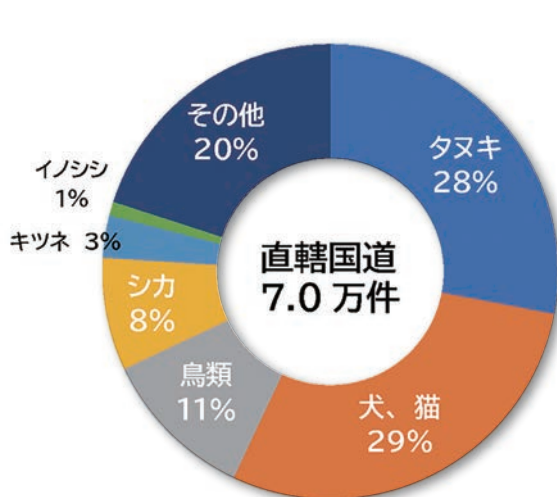


図2 直轄国道のロードキル処理件数（令和4年度）

出典：国土交通省資料を基にJICE作成

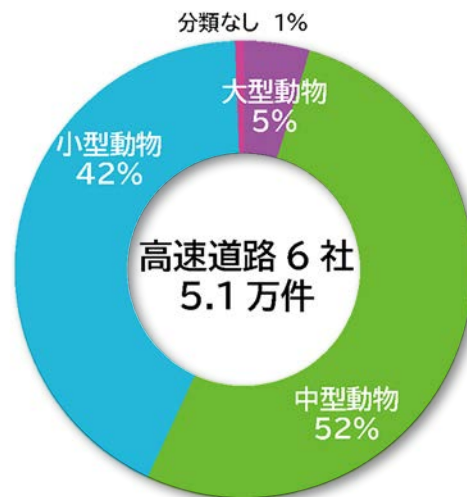


図3 高速道路6会社\*のロードキル処理件数（令和4年度）

出典：各高速道路会社\*のデータを基にJICE作成

\*東日本高速、中日本高速、西日本高速、本四高速、首都高速、阪神高速